香教連新聞　第500号　2021年（令和３年）　６月10日発行　（発行の定日　毎月10日発行）　平成４年７月24日第３種郵便物認可

香教連

香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：北村　顕吾

〒760-0004
高松市西宝町２丁目６番４０号
香川県教育会館６０２号
TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

新しい時代における研修会の在り方
第一回教育セミナー、ウエビナーで開催

五月二十八日（金）十九時より、第一回教育セミナーを、Ｚｏｏｍウェビナーを活用して開催した。徳島県教育文化研究所とも連携して開催し、六十二名の参加があった。

ウェビナーとは、Ｚｏｏｍミーティングとほぼ同様だが、大きく異なる点は、講師（複数でも可）は映し出されているが、参加者（視聴者）間には、誰が参加（視聴）しているか、分からないようになっているので、参加者（視聴者）がストレスなくアクセスできるようになっている。また、質問や意見等は「手を挙げる」アクションとチャット等の機能を活用して、講師に対して質疑応答等ができるようになっている。さらに、各個人のＩＣＴ端末等（パソコンやスマートフォン等）、既存のデバイスを利用でき、このコロナ禍においても参加者が安心して参加できる等、様々なメリットがある。そして、新しい時代の研修会の在り方や「教職員の働き方改革」が進められている教育現場での活用等の実証研究や提案も含めて、今年度から計画し取り組んでいる。

今回は「ＧＩＧＡスクールで教員はどう向き合えばいいのか」と題して、講師として阪根健二様（鳴門教育大学名誉教授）、植田恭子様（都留文科大学）をお招きして、それぞれのお立場からお話していただいた。阪根先生からは、急激に社会が変化していく中、教育現場においては昭和の学校の在り方を、平成を超えても今なお踏襲している点に大きな問題があると述べられた。そこで、ＯＥＣＤエデュケーション二〇三〇に着目し、ＯＥＣＤがカリキュラムの柔軟性を主張していることを挙げ、学校や教員は変化する社会的要件や個々の学習ニーズを反映して、カリキュラムを更新し調整できなければならず、そこにＧＩＧＡの存在があることも述べられた。さらに、児童生徒の学ぶ意欲を高めるためには、幅広い学力に合わせた新たな授業や指導方法の開発（ＩＣＴ活用を含めた）が必要であることも話された。

植田先生からは、「中学校国語科における情報活用能力育成～生徒らは将来必要とする能力をどのように意識しているのか～」と題して、中学校国語科において「生きて働く言葉の力」「情報活用能力」の育成を目指し、生徒一人一台タブレット端末という環境で、三年間のカリキュラム、情報活用能力のルーブリックを作成し、それをもとに学習活動を展開した事例を報告していただいた。また、生徒らが中学校三年間の国語科の学習を通して、どのような能力を身につけることができたと評価しているのかについて、卒業文集の文章等をもとに検証したことについても伝えていただいた。

20210528
１人1台タブレット端末活用の実際
都留文科大学　非常勤講師
植田恭子

令和三年度　本部執行役員

毎月10日発行　定価１部50円
（年間1,000円　送料とも）
会員の購読費は会費の中に含む

委員長（専従）
北村顕吾（丸亀）

副委員長
大西祐子（丸亀）

副委員長
澁田泰誠（坂出）

副委員長（東京専従）
村松宏晃（高松）

副委員長
原井和彦（大川）

事務局長（専従）
高木俊彦（丸亀）

香教連は、結成四十七年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力をもつ、県内最大の教職員団体です。

執行委員（単組選出）

木下　貴道（高松）
加藤今日香（丸亀）
前田　朋寛（坂出）
朝日　洋一（大川）
岸田　秀豊（小豆）
池田　道雄（木田）
水谷　勇介（綾歌）
末久由美子（仲善）
貞廣有里子（三観）

事務局次長

黒川　幸宣（高松）
谷上ひろみ（丸亀）

本部専門部長

○青年部長
西村　博文（仲善）
○女性職員部長
松本　美香（木田）
○養護教諭部長
土山　由美（三観）
○人事対策部長
相原順之介（丸亀）
○採用試験対策部長
江口　善喬（小豆）
○幼児教育部長
木下るみ子（高松）

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

温故知新

今年度も会員の皆様の御信任をいただき、委員長の大役三年目を務めさせていただきます北村顕吾と申します。平素より、先生方や各関係の方々からのあたたかい御支援・御協力のもと務めることができております。深く感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症まん延の影響で、今もなお、国難に直面しております。このような状況においても、新しい時代を担う子どもたちの健康・安全や学力等を保障していくために、そしてそれを支えている保護者や先生方のために、時代を見据えた教育環境整備の早期実現に向けて尽力してまいります。また、教職員の働き方改革や処遇改善、教育専門職としての充実した研修会の提供等につきましても努めてまいります。より一層の御支援・御協力を賜りますよう、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

今回は「やる気を起こす」です。

①心理のメカニズムと無気力の学習

人は行動を起こした後、二つの結果を得ます。一つは、行動→結果（成功）です。これは行動した結果が伴ったということです。この成功したことが心に『やる気』を引き起こすのです。ここで初めてソフト（心）が動き、ハードディスク（やる気の脳（側坐核））が働き出すことになります。つまり、やる気が起こる→行動→やる気の脳（側坐核）が働く。この循環になっている子どもは『やる気のある子』なのです。ところが、人は行動を起こした後、もう一つの結果が出る場合があります。二つ目は、行動→結果（失敗）。やる気が起こらない→行動しない→やる気の脳（側坐核）が働かない。ソフト（心）でプッツンされて、ハードディスクである（やる気の脳（側坐核））が働かないのです。それが一度や二度なら回復もします。ところが、勉強したのに漢字のテストは二〇点だった。次の漢字のテストは三〇点だった。その次のテストは二〇点だった。こうして、何度努力をし勉強しても失敗に終わる。うまくいかない。こういう体験を何度も繰り返すと、人は「私はいくらやってもダメだ」という『無気力の学習』をすることになります。『無気力』も学習するのです。これが「心理学のメカニズム」です。このように教師や親がいくら言っても勉強をしない子どもは『無気力の学習』をした結果だそうです。

②無気力をなくすには

この『無気力』をなくすには、成功体験を繰り返せばいいのです。これを、漢字の勉強の仕方をもとに説明します。「学び方」を意識した漢字教材は既にあります。要は、この教材を「どう指導するのか」です。第一段階「①指書き（机上に十回）」「②なぞり書き（はみださないように）」「③写し書き（手本を見てそっくりそのままを二回）」「④空書き（一回目は書き順を言いながら。二回目は目をつぶって）」。この第一段階で十五回以上書くようにします。「繰り返し」覚えることでこの漢字は、脳の「海馬」に「必要な情報」であることを執拗にアピールしているのです。第二段階テストの練習では、まず自力で解いてみて、間違った漢字だけ三回練習する。間違った漢字のみのテストをする。これを繰り返し「間違ったところを減らしていく勉強の仕方」を家庭でも行うようにします。そうすると必ず覚える（成功）ことができ、やがて『やる気』スイッチが入ります。（顕）